

日本核医学会ワーキンググループ報告

司会の言葉

久保 敦 司 (慶應義塾大学医学部放射線科)

日本核医学会では平成 8 年度より、学会および核医学の活性化をはかる一助として、本学会内にワーキンググループ (WG) を発足した。平成 8 年度は 8 テーマにつき WG 活動がなされ、昨年の本学会総会で各 WG 代表者から一年間の WG 活動報告がなされた。それに引き続き、本年も 7 テーマの WG が設置され活発な活動がなされ、今回その結果報告 (一部、中間報告) をしていただく予定である。心臓核医学 WG と PET 核医学 WG および SPECT 定量 WG は、別に本学会で講演会が行われるので、ここでは下記の 4 テーマの WG について各 WG 代表者に結果報告をしていただく。

1. 核医学検査の被曝管理 WG [継続]
遠藤 啓吾 (群馬大学医学部核医学科)
2. 核医学検査報告書標準化 WG [継続]
井上登美夫 (群馬大学医学部核医学科)

3. パソコンによる核医学検査報告書の標準化 WG [新規]
仙田 宏平 (藤田保健衛生大学衛生学部
診療放射線技術学科)
4. 肺癌ならびに乳癌の核医学診断のための放射性医薬品の適応症拡大に関する研究 WG [新規]
植林 勇 (大阪医科大学放射線科)

テーマはいずれも現在日本核医学会が対応しなければならない問題を多く含んでいる。WG のテーマは、学術的ではあるが strategic な面も多く含んでいるため、学会の発表やシンポジウムのテーマには取り上げにくいものが望まれる。今後多くの WG が活動し、学会や核医学の振興のためになることを願っている。